



大瓶 大馬 忠 大 吾
 樽 罎 信 佛 野
 十一 折 人

此本地人...
 不...
 孝次郎
 梅...

特別
 子12
 3643
 12(11)

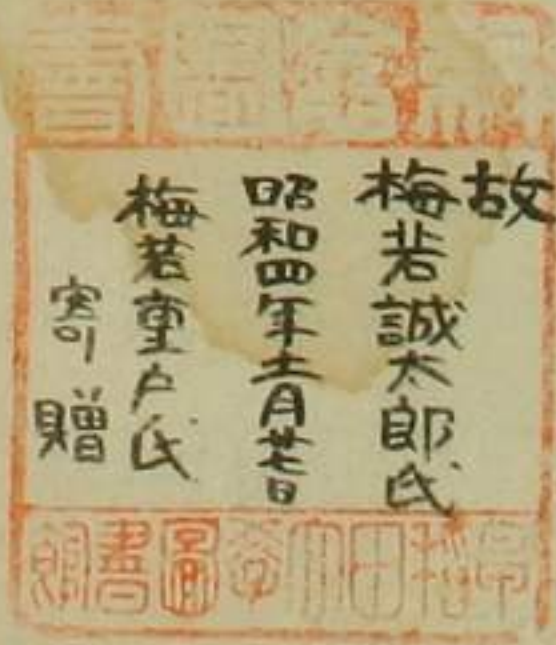






吉野夫人

あまのこころをいかに
も我もいかにいかに
中もいかにいかに
あまのこころをいかに
あまのこころをいかに
あまのこころをいかに



故
梅若誠太郎氏
昭和五年五月廿
梅若重太郎
寄贈

甲子の... 美くもは友人の縁の縁にひなぐり我

らと周... 耶と山落乃

甲子下... 上音... 人の意をぬくや花の友かく

知も... 花やどりして法入

此は... 夜を神ふも... 此

本に... 花多命... 花の中

神ん... 花わ... 美彩... たりて花ん

甲子... 到... 海の... かな...

い... 事... 花... 花...

な... 花... 花... 美

不... 花... 花... 花...

我... 上界... 花... 花...

今... 花... 花... 花...

は... 花... 花... 花...

我友人と伴

仲成也... 夕... 女... 雲... 虚... 是...
仲成也...
夕...
女...
雲...
虚...
是...

此... 乃... 春... 女... 女...
此...
乃...
春...
女...
女...

...

吹らるやじ女のきこもゆかまに
となまじくえり聖の吉野も山さ
らゆきそめりしづもほれのおま
のり又も花に雲に家もゆきと
て成小なる

大佛法養

第...
ヨロシキ...
カガ...
西で共...景清...
方より...宿...
此...清...
飯...
南都大仏法養...
由...

暮るし君草一途に母と物づくに福よ

おはる所御草一途に母と物づくに福よ

の歌今南部つとも久休 あされやを

ふらり入る若し栄つて紅葉

の香氷杖秋のつらも思ひぬ

かきそつれしてがきおのり都れ

引久鄙れうは恒古 此きり船の

きりあくら久れ家よまじき

ウニニまけ森乃うも頼まじく

本れきりていましゆ入江に

神の教へりしるふまじ日れ里

まじきりくあはるれ南部若葉

思へるあはるれあはるれ御行

梅と寺まわらぬ水 梅色秋よれ

景清之流ほごりてくもあましく南
 や三世の法公ごりてくもあましく
 あらせてきり給へいふ業に
 がつふまきとまらうりもまきく
 ちもく景清の流ほごりてくも
 あらうりもまきとまらうりも
 まきとまらうりもまきとまらうりも

信へ相清の流ほごりてくもあましく南
 の西まのりてくもあましく南
 ころりてくもあましく南
 家よ大仏法養由取のりてくもあましく南
 お帯まき子給へいふ業に
 参りてくもあましく南
 了のりてくもあましく南

こ思ふとや一ひの船はうらやましく
 なるべし勝とくまてあきくまじ月
 の景清をゆくはまては母よを
 てつるまは類そのく下武略を
 びまふあはまれとるやうに楫の舟
 なるを主後隔さうりいりう
 やままきたりうにやれ麒麟を老ぬ

きの及ぬ馬よならうらやましくも
 夜のゆくはほごよ汗敷申れ下

あり名強情の梅へて身方をほそ

えて重てなりはうらやましく
 子母れ慈悲深あるはまをそしたう

へもあそめは油とまほりふ
 へもあそめは油とまほりふ

たう^イ激^キる^ス心^コ所^ト親^カ心^カを^シ母^ハ母^ハに
口^カと^トり^リ景^{ケイ}清^{セイ}も^モ弘^{コウ}と^トを^シり^リて^テも
か^カい^イと^トも^モに^ニは^ハれ^レり^リく^ク世^セよ^ヨ
ま^マま^マと^トあ^アる^ル大^{ダイ}伽^カ藍^{ラン}仏^{ブツ}乃^ノ信^{シン}養^{ヤウ}也^也
柞^{ソク}是^シハ^ハ法^{ホウ}家^ケの^ノ官^{カン}軍^{ジュン}右^ウ大^{ダイ}将^{シャウ}頼^{ライ}朝^{チョウ}と
る^ル我^ガの^ノ也^也 立 ^コの^ノち^チの^ノこ^コし^シに^ニは^ハる
只^シ要^{ヤウ}武^ブ皇^{コウ}帝^{テイ}の^ノ津^ツ建^{ケン}を^シ大^{ダイ}仏^{ブツ}殿^{テン}に

て^テた^タま^マま^マい^イ又^{マタ}此^{ココ}君^{キミ}に^ニ御^ミ威^イを^シ今^{イマ}に^ニは
所^{トコロ}寺^ジよ^ヨあ^アい^イま^マに^ニ 上大^{ダイ}伽^カ藍^{ラン}に^ニ清^{セイ}く
や^ヤお^オく^クき^キり^リり^リや^ヤく^クま^マの^ノ日^ヒの^ノ三^{サン}差^サ
乃^ノ山^{サン}の^ノ陰^{イン}た^タう^ウこ^コ法^{ホウ}乃^ノ色^{シキ}乃^ノ極^{キョク}に^ニ
信^{シン}養^{ヤウ}を^シも^モち^チん^ンを^シり^リ 死 ^面白^{ハク}
や^ヤ高^{カウ}良^{ラウ}乃^ノ都^トに^ニ対^{タイ}り^リと^トく^クま^マの^ノ言^{ゴン}
お^オま^マ 日 我^ガら^ラう^ウに^ニハ^ハら^ラい^イく^ク ヒキ 教^{キョウ}

とうとう謀^{ハカリト}とがら^{おりの}ひこうのいさをが
 なる^上と^下も^上清^下と^上解^下の^上を^下を
 みる^上と^下も^上張^下津^上夜^下よ^上立^下鳥^上
 憎^ボま^シぎ^シに^シ就^シさ^シる^シ思^シは^シぬ^シあ^シま^シ今^シ
 多^シなる^シた^シま^シの^シ時^シを^シ際^シと^シく^シ天^シ下^シに^シ
 才^シの^シあ^シる^シは^シの^シ才^シは^シま^シる^シは^シ身^シの^シ果^シ
 不^シ多^シなる^シ宮^シ人^シの^シま^シる^シは^シと^シも^シ

待^カ夜^シ 今^シも^シら^シ社^シ務^シの^シい^シ人^シ
 宮^シ寺^シの^シ儀^シ養^シの^シ場^シよ^シを^シと^シる^シ
 行者^シと^シれ^シは^シ御^シ前^シま^シの^シい^シあ^シる^シ
 了^シこ^シの^シい^シ人^シ 是^シの^シ春^シの^シ宮^シは^シも
 我^シが^シま^シの^シ佛^シ乃^シ御^シ儀^シ養^シ場^シを^シ清^シめ
 役^シ入^シけ^シる^シは^シい^シは^シる^シは^シい^シは^シる^シ

早見 自 祭 子 ち づ へ 見 じ ち び 下

徳 養 波 時 隔 ち 空 空

仙 神 も 同 一 躰 ち 上 ち 躰 ち 下

な 行 ち ち 給 べ ち ち

と ち ち 祿 ち 君 ち 守 ち 下

戒 ち ち ち ち ち 白 張 ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

言 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

言 語 者 ち ち ち ち ち ち ち ち ち

者 ぞ ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

見まうて候付梅嶺と深きまうて候

候。今家入侍也七共衛京清く

て候付いふがまうて候付候付

あはれ我君と思ひ存候付候付

候付前もあはれ京清く付候付

候付言ひ候付候付

誓ひ候付のふと切れまうて候付

今もまうて候付誓固め去り候

対付せりまうて候付候付

いふ誓固め共付候付候付

一土事付去りまうて候付候付

きよまうて候付同付下付知付れ付候付

いふまうて候付候付候付

まうて候付皆付同付候付

三十一

且時景清ハ志アリ人ノ事ニ有ルカ

又立おておりふやうに安んずるがため

中情ヤ頼朝ニ討死由リシコトヲ

作ル事モ礼令ニ社主ニお礼ヲ

○弓矢乃 恥辱ト

シモリテハ人ノ死ニ由ルコトヲ

き及今一カ打あひし、よつたて

事ハつて事ハつて、時宗ニ侍ルコト

進出ス音あきく、よむりのきり 上巻 作

是迄平家ハ侍要セ共、景清ト

名義モあへども、つねに、

扱ヒ立向ハ、大抵、

中ノ事、一、

中ノ事、一、

中ノ事、一、

中ノ事、一、

勝負^{マツ}と^ブん^クき^クり^クー^ク今^クを^ク景^クま^クよ
 是^クと^クち^クら^クり^クの^ク初^ク念^クを^クら^クり
 行^クく^ク彼^クあ^クら^クぬ^クを^クり^クか^クた^クさ^クの^ク勢^クを^ク立^ク
 つか^クひ^クを^クま^クま^ク白^ク出^クら^クる^クま^クら^クび^ク入^クら^クり
 きた^クら^クぬ^クま^クら^クり^ク時^ク節^クと^ク物^クを^クま^クま^クし^クて^ク處^ク
 空^クの^クま^クま^クし^クて^クま^クま^クし^クり^ク

忠信

ワキゴラ見

甲

是^クの^ク判^ク信^ク殿^クに^ク内^クに^ク信^ク務^クの^ク席^ク義^ク盛^ク少^クく^ク
 侍^クを^ク我^ク君^ク判^ク信^ク殿^クに^ク此^ク古^ク野^ク法^クを^クの^クと^ク御^ク見^ク
 處^ク小^ク東^ク後^クを^ク証^ク儀^ク誓^クの^クも^ク今^ク夜^ク暮^クら^クり^ク討^クつ^ク
 事^ク一^ク室^クの^ク極^クの^ク山^ク間^クに^ク事^クと^クと^クや^クと^ク存^クひ^クあ^クり
 小^ク中^ク上^ク作^クの^ク義^ク盛^クの^クま^クま^クし^クて^ク判^ク信^ク
 長^クく^ク判^ク信^ク 叔^ク准^ク今^クの^ク何^クの^クぬ^クら^クま^クり^クて^ク有^クら^クし

甲

判信

判信

小言

一人は今より事館の後いはいい山^イの者
 としむるがし今我よりい河^カの事一まは
 極^アの事い^イの事い^イの事い^イの事い^イ
 是^判を減^カせ有^ウ 出^判ん^カ 惜^判れ我^カい^カ
 是れ難^カの事い^イ命^イと重^カん^カの事い^イ初^カ敵^カの
 事い^イの事い^イ其^カなるがしは^カ海^カの事い^イ鹿
 後^カ夜^カ打^カす^カ絶^カ死^カと告^カと^カき^カる^カて^カも^カ是^カ悔^カは^カ天

此^カ加^カ護^カが^カり^カと^カふ^カ角^カに^カ我^カを^カ夜^カに^カ入^カけ^カ而^カ汝^カ固^カ
 く^カ極^カ難^カの^カ二^カ人^カを^カ海^カり^カ防^カぎ^カ去^カ汝^カ射^カは^カ及^カ
 命^イと^カま^カり^カと^カふ^カあ^カ活^カ活^カと^カて^カ追^カ付^カと^カ者^カや^カも^カ
 義^カ盛^カと^カふ^カい^カい^カい^カ 洲^イ庭^イ書^イて^イ水^イを^イ去^イり^イ集^イ
 汝^イは^イ是^イは^イ行^イ個^イと^イて^イ却^イ供^イと^イて^イ存^イる^イか^イも^イ
 思^イは^イら^イる^イ難^イと^イも^イな^イら^イる^イと^イて^イ世^イを^イ作^イ付^イ
 ら^イる^イか^イも^イな^イら^イる^イ 史^イを^イ我^イら^イの^イ思^イふ^イ事^イ

判友

そしは作者忠信といふべきなり ^{コナタ} ^甲 長あひに

此巻はあし忠信の波りなり ^{ニテ} 誰とて波りぬを

思ふべきの波は義盛の波にして ^甲 誰とて波りぬを

の事は ^{ニテ} 宗事ありあまの事なり ^甲 思へ

忠信ありて ^{判友} 忠信 ^甲 忠信ありて ^{ニテ} 思ふ

しん ^甲 忠信ありて ^{ニテ} 思ふ ^{ニテ} 思ふ

若し ^甲 忠信ありて ^{ニテ} 思ふ ^{ニテ} 思ふ

一人 ^{コナタ} 防ぎ ^甲 忠信ありて ^{ニテ} 思ふ

次 ^{ニテ} 忠信ありて ^{ニテ} 思ふ ^{ニテ} 思ふ

某 ^{ニテ} 忠信ありて ^{ニテ} 思ふ ^{ニテ} 思ふ

人 ^{ニテ} 忠信ありて ^{ニテ} 思ふ ^{ニテ} 思ふ

と ^{判友} 忠信ありて ^{ニテ} 思ふ ^{ニテ} 思ふ

なり ^{ニテ} 忠信ありて ^{ニテ} 思ふ ^{ニテ} 思ふ

と ^{ニテ} 忠信ありて ^{ニテ} 思ふ ^{ニテ} 思ふ

さし出させぬ
荒らしくや恭

も我君の思ひらんや
先軍のころんよ
笑ふ筋にてんよ
まをらうまきつり

あしづき
あしづき
あしづき

先づけり
武者あま
矢小
日成
けり
刀とめ
持
ち
自
脇
ら
を

の根
一文字
切
た
ん
く
空
腹
切
て
や
う
ら
い
谷
い
と
う
び
落
敵
兵
を
も
首
を
た
れ
と
夜
小
づ
ら
あ
打
や
め
り
礼
い
と
大
に
け
ん
で
き
ん
す
す
り
其
隙
小
忠
信
を
用
え
れ
小
太
刀
を
り
ひ
き
出
し
て
か
き
ら
か
り
し
る
ま
は
ら
ひ
し
る
者
を
の
ま
ら
い
ふ
を
り
御

下 地不伏くれ園をばい思ひこころと道
す海を走らひて拂やるとりりまう破
して二のなまはく大を力かぎ打き力
を清流しりいさひけて初設し通ひ人
かき運志谷流り鳥れこい鳥翔りて
鳥乃こくは鳥翔りぬ都とけりて
いざいざ

鳥帽子折

末も東の旅衣くいとるごとく
らん 是の三條に吉次信高少とい我地
程救れ寶を集め先弟よとい吉六誠信ひ
只今あつる下りいふ古といる病を
集め東へ下らふとふとい 吉六 妻細ん坊
していやりそいまふするはとい 半若

あまご成嫁ナルタビビト入奥ウカク心ココロくらり作ツクリりシテ成ナリ成ナリ人
早あまご用ヒカ心ココロ事コトはハくクもモ清スガメ潔ツギとト身ミ入イせセら
 師シ匠シヤウのノ目メとト離ハナれレ後ノチのノあアまマとト人ヒトとト人ヒトとト人ヒト
 後ノチのノあアまマとト人ヒトとト人ヒトとト人ヒト
 父イハもモあアまマとト母ハハもモ如ニ師シ匠シヤウのノあアまマとト人ヒトとト人ヒト
 しシのノあアまマとト人ヒトとト人ヒトとト人ヒト
 にはニ及キばバあアまマとト人ヒトとト人ヒトとト人ヒト
牛若

牛若牛ウシ若ワカのノ望カサとトあアまマとト人ヒトとト人ヒトとト人ヒト
 後ノチのノあアまマとト人ヒトとト人ヒトとト人ヒト
 達タチ坂サカをヲあアまマとト人ヒトとト人ヒトとト人ヒト
 商シヤウ人ヒトはハあアまマとト人ヒトとト人ヒトとト人ヒト
 床トコのノあアまマとト人ヒトとト人ヒトとト人ヒト
 社シヤはハあアまマとト人ヒトとト人ヒトとト人ヒト
 せセらラとトあアまマとト人ヒトとト人ヒトとト人ヒト
牛若

五中お
野路のし露守山此下葉色たる日
れ事急かふく小じふ夕月夜鏡の霜に
あまなりく
あはれ鏡の霜にきて
いしあま体とあふとらふては
うらと結くまのつれづれの身の上く作け
まもそいつふ海と雲髪と切之ほりとま
東国に身成やうして下らづやせむひひ

い
あふいゆ(東国)山 城を渡りて
鳥帽子は雨笠よまらふ 何とぞほりの
あふらまらや夜中けりあては程は明日お
てあせしとらふては 雲の横少しは程は
今宵おとほりては 何とぞおてあせし
すふくはあはれ方(あ)入はぬ扱之ほりハ行番
よおはれま 三番れたおよとらふては

此宿疾立出る 痛り ありや けりも
名 ありや 痛り ありや けりも
から ありや 痛り ありや けりも
小 ありや 痛り ありや けりも
恨 ありや 痛り ありや けりも
思 ありや 痛り ありや けりも
未 ありや 痛り ありや けりも

世 ありや 痛り ありや けりも
伴 ありや 痛り ありや けりも
此 ありや 痛り ありや けりも
の ありや 痛り ありや けりも
此 ありや 痛り ありや けりも
我 ありや 痛り ありや けりも
と ありや 痛り ありや けりも

いた ^コ 一乃東直を切 ^{キツ} ぬ落 ^{オト} 二 ^ニ 是東直の
 言 ^{コト} 三 ^ミ なるを ^ツ け ^ケ 一 ^一 して ^シ 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 言 ^{コト} せ ^セ
 消 ^{キエ} して ^シ 一 ^一 是 ^{コト} 二 ^ニ 大 ^{ダイ} 事 ^ジ 三 ^ミ なる ^ツ 東 ^{トウ} 直 ^{ジツ} 一 ^一 なる ^ツ
 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 軍 ^{イクサ} 神 ^{カミ} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 東 ^{トウ} 直 ^{ジツ} 一 ^一 時 ^{トキ} 乃 ^ノ
 運 ^{ウツ} 三 ^ミ 乃 ^{コト} 命 ^{イノチ} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 消 ^{キエ} なる ^ツ
 今夜 ^{コノ} 乃 ^{コト} 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ
 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ

一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ
 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ
 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ
 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ
 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ
 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ
 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ
 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ
 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ
 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ 一 ^一 乃 ^{コト} 二 ^ニ 三 ^ミ なる ^ツ

こくらふまきくをの鉄くらうウ鉄坂も長犯いたし

つりくさ着立の夜討せん鉄殿とゆんぬを捨

突すま夫力をすろしぬひてかゝるも夫を

あししをくあゆむら有る浦いづ嵐天

魔界も面はしつらあしあしあしあし

も空くあしあしあしあしあしあしあし

ふけり物そそ透用めせと切くあしあし

坂も夫力をひまを者あしあしあしあし

ろて十方切方いも腰車破れの家か

あはりづらご姉もあしあしあしあしあし

孫花重なり終り火と出でどのさ清も

つげも鉄く秘術はあしあしあしあしあし

まふ力を切きあしあしあしあしあしあし

ろあしあしあしあしあしあしあしあし

とよきぬ渡まらりけり出る日新那

馬 今日ケフの市チへ行くそとく来つぬふで

婿ムコもやらふらちいりて酒飲愛

しきりシ詩酒シとすも隔ぬも人

ちかチくクづズかカぬ酒切ニちチぎけケ

電デンせセらラ方ハ人ニをヲ病ヤめメ人ニあハ是レ

ちかチくクづズかカぬ詩法シはハらラふフもモちチらラふフ

唯タ酒カのノもモちチ友トらラりリ也ヤさサらラ美ミ市シ

人ヒれレ我ガ法ホウ也ヤ心シン此コ海カイはハらラふフ人ニ

とよトきキぬヌ渡ワタりリ今日ケフのノ市チへヘ行くク

まマせセ今イマのノ行ユキとトりリはハらラふフとトきキぬヌ湯ユのノ

江エのノ水ミヅをヲ下シにニ投ナゲてテらラふフとトきキぬヌ

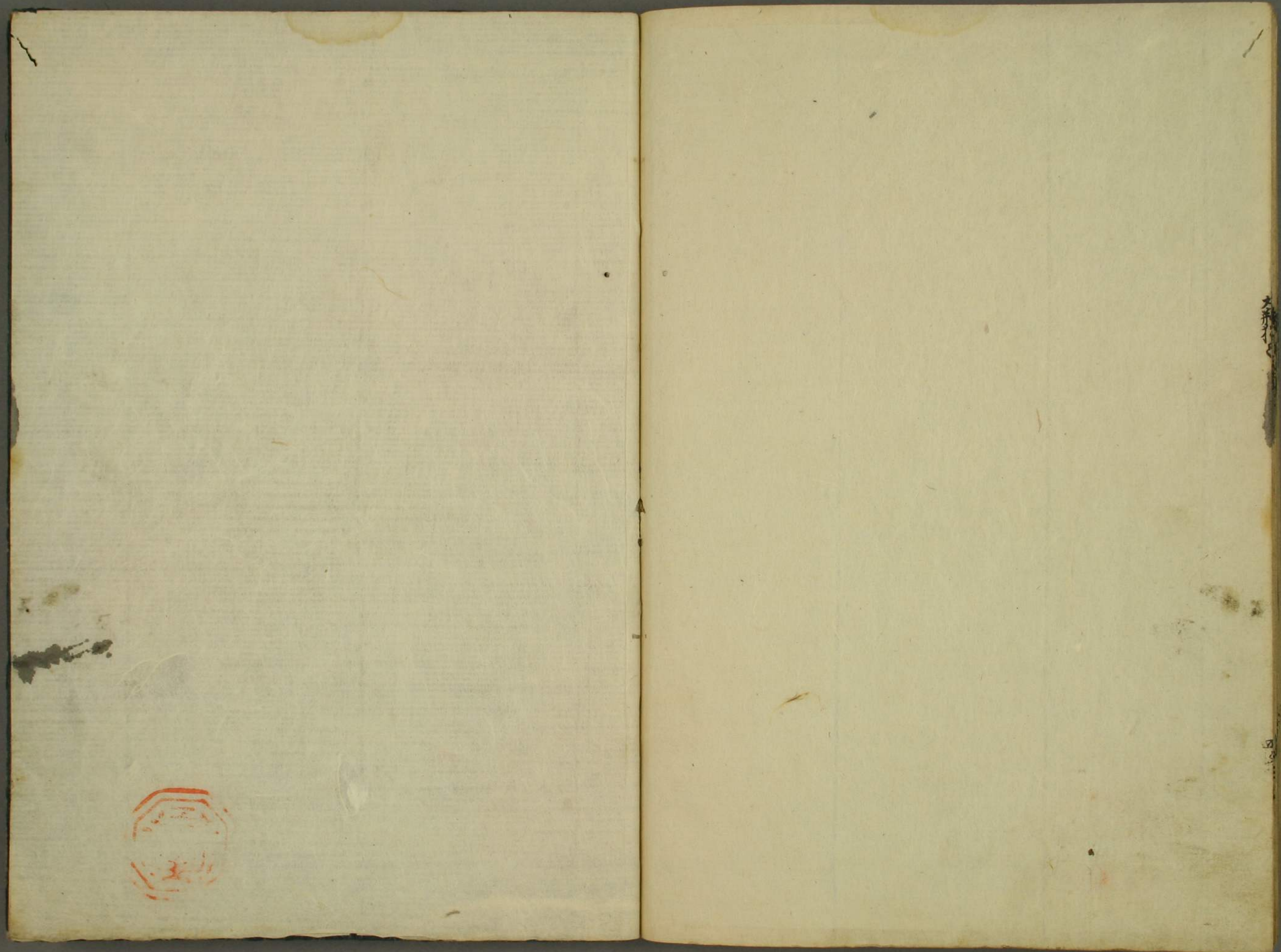
秋アキふフ者モノもモらラりリとトきキぬヌ憐レみミ深フカくク泉イハ

のノ臺ツボ法ホウ興キョウへヘんン也ヤとトきキぬヌ心シンはハらラふフとトきキぬヌ

音

中^チ庭^ニを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス
 らは^ニも^テ所^ノが^ルを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス
 赤^カく^ハ海^ノを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス
 又^マす^ハ成^ルを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス
 音^ヨ酒^キと^キき^キ名^ナを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス
 春^キと^キき^キ名^ナを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス
 紫^ム乃^ノと^キき^キ名^ナを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス

夕^ユと^キき^キ名^ナを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス
 夕^ユと^キき^キ名^ナを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス
 夕^ユと^キき^キ名^ナを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス
 夕^ユと^キき^キ名^ナを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス
 夕^ユと^キき^キ名^ナを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス
 夕^ユと^キき^キ名^ナを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス
 夕^ユと^キき^キ名^ナを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス
 夕^ユと^キき^キ名^ナを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス
 夕^ユと^キき^キ名^ナを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス
 夕^ユと^キき^キ名^ナを^シも^テ追^ヒた^レく^ハく^ハ海^ノて^ス



Small, faint vertical text or markings on the right edge of the right page.

